

電子写真機變愛

第十四夜

シャッターチャンス最強カメラ到来。とうとうここまで進化しましたルミックス、GX7Mark II。

ミリ、厚さ約43・9ミリのボディサイズにバッテリーを含んだ質量約426gはカメラとしては軽くてコンパクトすぎます。致命的とも言えます。これでは低速シャッター時の手ブレに対してはまったくの無力。やはりカメラはこつこつとたつぷり1kgは欲しいですね。それくらいの手心えがないとしっかり構えることも……え？ 新開発の5軸ボディ内補正と2軸レンズ内補正を兼ね合わせた「Dual I.S.」で強力に手ブレ補正ですか……ぎゃふん。しかしアレでしょ、最新のテクノロジーにはニンゲン不在の冷たくドライな仕上げの写真しか撮れない温かみに欠ける現代のゆがんだ……え？ ローパスレスの16メガセンサーを新ヴァイナスエンジンによる高画質化かつ、階調豊かで深みのある仕上がりを目指した新モノクロモード「L」モノクロームを新たに加え、質感描写の追及に余念無し。しかも新開発シャッターは従来より静音低振動で撮り心地なおよろし……ぎゃふん。とまあ、ことごとくぎゃふんと言わされたのでありますが、どうせならさらに4K撮影機能で今度はどうの音もでないようにされてみよつではありませんか。

GX7Mark IIの4Kフォトは秒間30コマの高速連写で決定的瞬間をバッチリ捉える夢の機能が、3モードに分かれております。シャッターを押し続けている間4Kフォトを撮り続ける「4K連写」、シャッターで連写オン、もう一度押し続けてオフにするまで撮り続ける「4K連写(S/S)」のふたつのモードでは無制限(カード容量やバッテリーの持続時間に依存)に連写し続ける持久力があるそうです。そして決定打となるのが「4Kプリ連写」シャッターボタンを押したあと1

こんな写真に變をする



LEICA DG SUMMILUX 12mm F1.4 価格19万4400円
 絞り開放から絞り込んでの描写まで全域で素晴らしい解像感を得ることができるLEICA DG SUMMILUX 12mm F1.4。ピントからアウトフォーカスまでのなだらかなボケのグラデーションを楽しむのもよし、絞り込んでカッチリとしたシャープネスを楽しむのも良しの素晴らしい広角単焦点。防塵防滴構造と金属外装がやる気も引き出します。

絞り●F16
 シャッター速度●1/160秒
 撮影モード●絞り優先オート(-0.7)
 ISO200



LEICA DG SUMMILUX 15mm F1.7 価格7万5600円
 単焦点ライカレンズキットでボディとセットされている小型軽量のレンズだが、キットレンズと侮ってはなるまじの素晴らしいキレ味。そもそも換算30ミリでF値1.7という通好みのLEICAレンズなのである。7群9枚のマルチコーティングされた上質なレンズは約115gとコンパクトに凝縮され、常時装着していてもまったく重さを感じさせない。

絞り●F5
 シャッター速度●1/1000秒
 撮影モード●プログラムオート(-2)
 クリエイティブコントロール・ハイダイナミック

LEICA DG VARIO-ELMAR100-400mm F4-6.3 価格24万8400円
 このレンズ、2月のCP+ (日本最大の映像用品展示会)ではじめて展示されたのですが、プレスタイムが終わったと同時に寄せたファンの数。いやじつにスゴイ人気でした。それほど期待されていたレンズということですが、実際に使用してみると、キレ、画質、フォーカス速度すべてにおいて高いレベルの完成度。これは実にいいもんです。

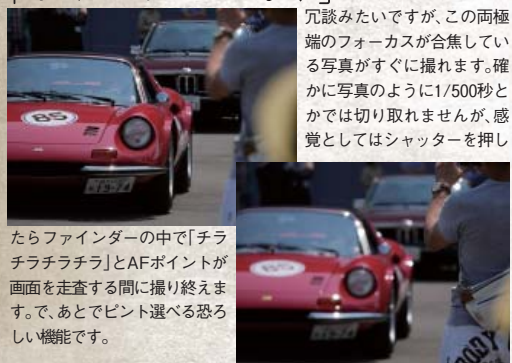
絞り●F5.5
 シャッター速度●1/1000秒
 撮影モード●プログラム(-0.7補正)
 フォーカスセレクト使用



「大盛、4K機能。比較明合成」

ほかのカメラの追従を許さないバソニックの4Kフォト技術。こんどは露出差のあるシーンを4Kフォトで捉えることによりカメラ内で比較明合成いわゆるコンポジット撮影が簡単にできます。使いたい写真を4Kファイルから選ぶ方法とシーンの始まりから終わりまで合成する二通りが選べます。

さらにメガ盛り、4K機能。「フォーカスセレクト」



フォーカスセレクト

冗談みたいですが、この両極端のフォーカスが合焦している写真がすぐに撮れます。確かに写真のように1/500秒とかでは切り取れませんが、感覚としてはシャッターを押し

たらファインダーの中で「チラチラチラ」とAFポイントが画面を走査する間に撮り終えます。で、あとでピント選べる恐ろしい機能です。

フォーカス・手前のカメラマン

写真と文 織本知之



胸騒ぎとか予感めいたモノとか感じたことはありませんが、やべ、そろそろパン……というアレの通りに給湯からはじまりPC、カメラ、エンジン等々と続いてカードの明細を見たくない梅雨だったかな。どつと支払いどつと支払い。

ルミックス GX7Mark II



価格オープン
 (12-32mm標準ズームレンズキット)
 実勢10万6000円前後
 15mm単焦点ライカDGレンズキット
 実勢13万6000円前後
 バソニック ☎0120-878-365 lumix.jp

そのうえこの4K連写を応用し、撮影後に合焦面を選択できる「フォーカスセレクト」機能も装備とまったく不足がみあたりませぬ。このカンペキとも言えるボディにはカンペキなレンズを合わせてやりたいものであります。キットレンズのLEICA DG SUMMILUX 15mm F1.7もいいモノですが、ぜひ新しいLEICA DG SUMMILUX 12mm F1.4もお忘れなく。広角24mm換算で開放F値が1.4というボケの美しい優れた交換レンズで、節度ある感度の絞りリングと頑丈な金属外装、防塵防滴仕様の高性能交換レンズです。表現力にこだわる方こそぜひこのレンズ!

もうひとつ望遠ファンにお届けしたい名レンズがLEICA DG VARIO-ELMAR100-400mm F4-6.3。全長約172mm、質量約985gで換算200ミリから800ミリの超望遠ズームです。ボディとレンズ側両方の手ブレ補正と連動し、強力な手ブレ制御が超望遠手持ち撮影を可能にし、絞り開放から解像感のある良質な画像はさすがLEICAレンズ。

紳士のみならず、この夏のボーナスの使い道、決まりましたね!?



4K連写ならではの決定的瞬間を貴兄にも!

しかもその瞬間に少しいただけましたらピントのほうも全部合わせて面倒みまますよというのです。ええ、そうです画面全部のピント合わせという……いったいなんということをしてくれたのでしょうか。われわれ職業写真家としてはこのGX7Mark IIの脅威を見逃すわけにはいけません。人々がこのGX7Mark IIの性能に気が付く前に水際で押しとどめておかねば、おマンナの食い上げです。よって今回は本格的に辛口でまいります。さあ覚悟しろよGX7Mark II。

まずはサイズあたりからネガティブに悪意をもって検証してみましよう。約122ミリ×約70・6

むかしむかし、まだ35ミリの写真フィルムをひととびとが使用していたころ。一瞬のチャンスを写し止めるのは職業カメラマンの技のひとつでありました。

例えば野球のボールがバッターの一振りでカキーンと打ち返されるインパクトの瞬間、サッカーではゴール際のせめぎ合いの中で見せるシュートした瞬間の表情、自衛隊総合火力演習で轟音と共に出現する戦車砲の巨大な発砲炎……どれも素人さんには数層が高く撮影は困難を極めると思われておりました。写真家サイドも「そうそう、狙ってもなかなか撮れないよね。そつうときはプロに頼もつね」と考えていたのであります。それだけではなく、「まあ素人さんには無理だからね」とタカをくくっていたのでもあります。

歳月は流れ、テクノロジーは進化し、ルミックスはその技術に磨きをかけてきました。そして今日では上記の決定的瞬間、今ではぜんぶこのGX7Mark IIでも撮れなく撮れます。